

2022年度 第2学年 国語科 指導内容・評価規準

担当（石原 宥）

<第2学年の目標>

- ① 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- ② 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ③ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

NAVIMA 使用予定

月	学習事項	学習活動	時数	評価規準
4月	見えないだけ	詩を通読し、好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。言葉や表現が生み出している効果についても確認する。	2	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
	アイスプラネット	登場人物の言動や心情を表す表現から、「僕」の心情の変化を捉え、「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取る。 「ぐうちゃん」の考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら感想をまとめる。	4	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。 【態】積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
	[聞く]問いを立てながら聞く	意見と根拠を整理し、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞く。メモを基に、意見や根拠について検討する。	1	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 【態】進んで論理の展開などに注意して聞き、今までの学習を生かして疑問点や確認したい点を考えようとしている。
	季節のしおり 春	春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	1	【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
5月	枕草子	冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。 「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。	4	知・技 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
	情報整理のレッスン	・教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。	1	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。
	多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	・社会生活の中から紹介する事柄を決め、多様な方法で情報を集める。集めた情報を分類・整理し、自分の考えをまとめる・完成した作品を読み合い、まとめ方や情報の活用のしかたでよいと思った点や、感想を伝え合う。	5	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。
	漢字1 熟語の構成	教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。	1	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

5月	クマゼミ増加の原因を探る	・全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。	4	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。 【態】積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
	思考のレッスン1 具体と抽象	教材文を読み、具体と抽象の概念を理解する。	1	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。
	印象に残る説明をしよう プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションのテーマを決め、相手、話題目的を確かめる。効果的な話の構成を考える。進行案を作り、話の構成や提示資料を工夫する。プレゼンテーションをし合い、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞く。	5	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 【態】粘り強く自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。
6月	漢字に親しもう2	・新出漢字を確認する。	1	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	文法への扉1 単語をどう分ける？	p240文法1「自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。	2	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に自立語について理解を深めようとしている。
	メディアを比べよう	たさまざまなメディアを「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、その根拠を話し合う。目的や状況に応じたメディアの選び方を考える。	3	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理している。 【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。
7月	短歌に親しむ 短歌を味わう	短歌の特色などを知るとともに、それぞれの歌に込められた心情や情景を想像し、内容や表現の仕方について感じたことを話し合う。目にした情景や心に残る出来事を題材にして短歌を作り方鑑賞し合う。	4	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。 【態】進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
	言葉の力	言葉についての筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。	3	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

言葉 1 類義語・対義語・ 多義語	教材文を読み、類義語・対義語・多義語の性質や特徴について理解する。	2	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。
言葉を比べよう	言葉を分類して、類義語を集め比較して、意味や使い方の微妙な違いに気付く。	2	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとしている。
読書を楽しむ	さまざまな読書活動を知り、各自課題を設定し、本の魅力を伝え合う。	1	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
翻訳作品を読み 比べよう	翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。	1	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】進んで表現の効果について考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。
季節のしおり	・夏の行事・暦に関わる言葉や、夏の情景を詠んだ詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	1	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
盆土産	登場人物の言動や様子を描いた表現から読み取れる、人柄や心情について考える。	5	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 【態】粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。
字のない葉書	二つの思い出の内容を整理し、表現に着目して、人柄や心情について読み取る。父親に対する「私」の思いについて考える。	4	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
聞き上手になろう	・思いや考えを引き出すために、どのような質問をしたらよいかを考え、インタビューを行う。	1	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 【態】粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。
表現を工夫して書こう。手紙や電子メールを書く	・手紙と電子メールを比較し、特徴を捉える。伝えたい内容を決め、通信手段を選び、相手や目的に応じて言葉遣いに気を付け、気持ちや用件が伝わるよう表現する。	3	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。
【推敲】表現の効果を考える	・手紙の下書きを読実、適切な文字や表記に書き改める。	1	【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 【態】粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。
言葉 2 敬語	教材文を読み、敬語の働きや種類（丁寧語・尊敬語・謙譲語）について理解する。	2	【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。

10月	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字	同じ訓読みで表す意味の異なる漢字、同じ音読みで異なる漢字について学習する。	1	【知・技】 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	モアイは語る ——地球の未来	段落に着目し、文章の構成を捉える。 筆者の論理の展開や表現のしかたについて考える。	4	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(1)エ ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
	思考のレッスン2 根拠の吟味	根拠を吟味する観点を押さえる。文章を読んだり、相手の話を聞いたりし、根拠を把握し、その根拠に説得力があるかどうか判断する。	1	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
	根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く	社会生活の中から課題を決め分析する。課題に対する自分の意見を決め、立場とそれを支える。根拠を明確にし、構成を工夫しながら意見文を書く。他者と読み合い、改善点を伝え合う。	4	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
	漢字に親しもう	新出漢字を確認する。国語辞典で言葉の意味を調べる。	1	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	【討論】異なる立場から考える	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。	2	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 【態】進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとしている。
11月	立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する	目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。	4	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。
	音読を楽しもう 月夜の浜辺	反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。	1	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩の構成や表現の効果について考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。
	季節のしおり 秋	秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ	1	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

	音読を楽しもう 平家物語	「平家物語」冒頭部分を音読（朗読）、暗唱する。 ・原文を声に出して読み、表現や文体の特徴に触れるとともに、古文のリズムに慣れ、親しむ。 ・現代語訳を参考にして、冒頭部分の意味について自分なりに想像する。	2	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。
	扇的 ——「平家物語」 から	登場人物の心情を想像しながら作品を読み、「平家物語」に描かれたものの見方や考え方について自分の考えをもつ。	4	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 【態】進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
	仁和寺にある法師 ——「徒然草」か ら	描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、作者のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。	4	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 【態】積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
	漢詩の風景	漢詩に描かれた世界を解説文とともに読み味わう。好きな漢詩を一編選び、その理由を伝え合う。	3	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。 【態】進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。ながら、詩の情景や人物の心情を想像している。
12 月	君は「最後の晚餐」 を知っているか 「最後の晚餐」の新 しさ	文章を比較し、構成や表現の特徴や共通点・相違点を確かめる。	4	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。
	魅力を効果的に伝え よう 鑑賞文を書く	作品を鑑賞し、魅力を一文で表す。根拠となる具体的な特徴、感じたこと・想像したことを付箋などに書き出す。表現の効果を考え、読み手を意識して鑑賞文を書く。	3	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 【態】進んで表現の効果を考えて描写し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。
	漢字に親しもう	新出漢字を確認する。国語辞典で言葉の意味を調べる。	1	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	文法2 走る。走 らない。走ろうよ	「用言の活用」を理解する。	2	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。

1月	読書案内 本の世界を広げよう	教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う	1	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。</p>
	季節のしおり 冬	冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	1	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
	走れメロス	描写や会話に着目して、登場人物の人物像の変化を捉え、主題について考える。	8	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。</li> <li>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</li> </ul> <p>【態】粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力や文章にまとめようとしている。</p>
2月	漢字に親しもう	新出漢字を確認する。国語辞典で言葉の意味を調べる。	1	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
	文法への扉3 一字違いで大違い	「付属語」を読み、助詞・助動詞の働きと種類について理解する。	2	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。</p>
	構成や展開を工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く	生活を振り返り、取り上げたい「ある日」を選び、物語の設定とあらすじを考える。構成や展開を工夫して物語を書く。友達の書いた物語を読み、助言し合う。	4	<p>【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。</li> <li>・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。</li> </ul> <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。</p>
2月	言葉3 話し言葉と書き言葉	導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。	2	<p>【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。</p>
	漢字3 送り仮名	教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。	2	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。</p>
	国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る	自分たちの変化から「国語を学ぶ意義」を考え、グループで壁新聞のテーマを一つに決める。内容と割り付け、必要な写真や図を話し合う。分担して記事を書く。壁新聞を読み合い、感想を伝え合う。	5	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話や文章の構成や展開について理解を深めている。</li> <li>・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。</li> <li>・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。</li> <li>・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。</li> </ul> <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。</p>

3月	木	詩の表現の意味を考え、作者のものの見方について語り合う。	4	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【態】進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。</p>
	学習を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>小説の長編版と教科書版を比較し、構成や展開、表現の効果を考える。</li> <li>卒業生に伝えたい言葉を選び、出典を明らかにして理由を書く。</li> <li>電子メールを書くときの留意点を確認する。</li> </ul>	3	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。</li> <li>敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。</li> <li>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。</li> <li>「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。</li> <li>「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。</li> <li>「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。</li> <li>「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</li> <li>「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。</li> </ul> <p>【態】進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして、学習課題に取り組もうとしている</p>

<補充教材（発展的内容）の取り扱い>

単元教材の合間や学期の終わりに短く浅く広く触れることで、興味関心をもたせる。  
 後に、個人が興味をもって深めていけるように動機付けをする。  
 また、教材をより理解するために補充的な教材を使用する。  
 書写（毛筆、硬筆）の授業を実施する。（ICT使用）

<評価の方法>

観点1（知識・技能）：小テスト、授業の課題プリント、定期考査  
 観点2（思考・判断・表現）：発表・話し合い（スピーチ、プレゼンテーション、パネルディスカッション）・聞き取りテスト、作文（意見文、感想文、スピーチ原稿）、俳句、課題プリント、定期考査  
 観点3（主体的に学習に取り組む態度）：提出物（ワーク、ノート、プリント等） 授業への取り組み 定期考査

<評定算出にあたっての重みづけ>

観点	観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
重みづけ	1	1	1